

音の日委員会の活動報告

音の日委員会 委員長

林 和喜 (株式会社 JVC ケンウッド)

皆様、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。
音の日委員会の活動と、昨年 12 月 6 日に開催しました「音の日」のイベントについてご報告いたします。

1. 音の日委員会の活動報告

2018 年 6 月 22 日に発足した新体制の下、「音の日委員会」も 2 年目となりました。2019 年の音の日委員会の活動は、2018 年の「音の日」の記念イベントの結果を踏まえ、2019 年 12 月 6 日の「音の日」の記念イベントに向けて基本的な考えをまとめ、9 月 30 日の第 3 回理事会後の運営会議で以下の通り報告させていただきました。

1) 音の日の記念イベントの基本的な考え方。

日本オーディオ協会の記念イベントとしては OTOTEN の発信力が最大であり、費用対効果が高いイベントである。音の日に実施していた「音の匠」顕彰および「日本オーディオ協会功労賞」の授賞式については、OTOTEN 内で実施することで発信力を高めることとしました。

2) 「音の日」の記念イベントについて

学生の制作する音楽録音作品コンテスト、特別講演を実施すること、イベント後の記念懇親会については、スタジオ協会主催の日本プロ音楽録音賞授賞式と一体の運営を行うことといたしました。

2. 「音の日記念行事」の実施報告

1) 「音の日記念行事」について

2019 年 12 月 6 日 (水) 東京 FM ホール (千代田区麹町)、東京 FM11 階会議室をお借りし、共催：日本レコード協会、日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、演奏家権利処理合同機構で実施いたしました。

2) プログラム

(1) 学生の制作する音楽録音作品コンテスト授賞式

日本オーディオ協会は、音楽録教育の重要性を認識し、その啓発に取り組んでおります。毎年「音の日」に、「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」を実施し、優秀な作品を制作した学生に対して表彰を行っております。6 回目となる今年は 28 (昨年は 27) の応募作品が集まり、益々規模が拡大しております。今回、コンテストへご協力いただきました審査委員先生は以下の方々です。

亀川 徹 氏	東京藝術大学 音楽学部
長江 和哉 氏	名古屋芸術大学 芸術学部
柿崎 景二 氏	尚美学園大学 芸術情報学部
我妻 拓 氏	日本工学院専門学校

上埜 嘉雄 氏 日本大学 芸術学部/Audio Engineering Society 日本支部
見上 陽一郎 氏 音響芸術専門学校
千葉 精一 氏 日本オーディオ協会

各賞の受賞者の方は、

➤ 最優秀賞

作品名：絶滅種の側から（読み：ぜつめつしゅのがわから） 5.1ch 96kHz 24bit

田中 克さん 東京藝術大学大学院 音楽研究科 研究生課程

増田 義基さん 東京藝術大学 音楽学部 音楽環境創造科 4年

➤ 優秀企画賞

作品名：pm 04:29（読み：ピーエム ゼロヨンニーキュウ） 2ch 44.1kHz 16bit

田島 俊貴さん 九州大学大学院 芸術工学府 芸術工学専攻 コミュニケーションデザイン科学コース 修士2年

➤ 優秀音楽作品賞

作品名：Frank Martin/フルートとピアノのためのバラード 5ch 96kHz 24bit

福井 楓葉さん 名古屋芸術大学 音楽学部 音楽文化創造学科 サウンド・メディアコース 4年

➤ 優秀録音技術賞

作品名：All That Jazz 5.1ch 96kHz 24bit

岩本 双葉さん 洗足学園音楽大学 音楽・音響デザインコース 4年

各賞の代表の方に、小川会長から表彰状と副賞の授与が行われました。

「絶滅種の側から」では、ダムマニアである田中さんが実際のダムの中空の空間で1発録りされた作品で、企画力と今まで体感したことのない不思議な残響による感覚を表現された作品でした。

「pm 04:29」は、ストリーミングサービスに着目され、作品の発信を気軽にできることを主題に企画された、女性ボーカルによる楽曲で完成度も高いと感じました。

「Frank Martin/フルートとピアノのためのバラード」では、サラウンドを用いた空間の表現力の高さを感じました。

「All That Jazz」では、歌も演奏もレベルが高いと共に、あたかもミュージカルの舞台の上にいるような音場を再現されていました。岩本さんはこの賞を取るために毎年出品されているとのこと。事務局として大変うれしく感じました。

今年も昨年にも増して学生の皆さんの作品のレベルは高く、先生方は選定に大変苦労されたとのこと。受賞の皆様、誠におめでとうございます。今後のご活躍を期待しております。



(2) 音の日特別講演「オーディオの未来を語る」

今回の特別講演のテーマは、オーディオ業界に携わるすべての皆さまに関心があると思われる「オーディオの未来」についてオーディオ評論家、ヘッドフォン・イヤホン専門店様、メディア媒体の編集長という各分野のトップランナーにお集まりいただき、この先の展望について熱く語っていただきました。ご講演いただきましたのは以下の方々です。

生形 三郎氏 (オーディオ評論家)

岡田 卓也氏 (e☆イヤホン副社長)

小林 久氏 (アスキーブランド総編集長)

押野 由宇氏 (音元出版) <進行兼任>



押野さんの進行の元、最初に 4 人がご自身のプロフィールとオーディオ原体験を語った後、最新のオーディオトレンドについて様々な意見が交わされました。なかでも多く話題にのぼったのが、360 Reality Audio や Amazon Echo Studio といったオブジェクトベースのオーディオ再生や、イヤフォン・ヘッドフォンを使った ASMR (Autonomous Sensory Meridian Response) についてです。サブスクリプション型ストリーミングサービスによってハイレゾがますます手軽に楽しめるようになった 2019 年でしたが、高音質化の次にやってくる未来のオーディオの姿を垣間見たような気がしました。講演内容は日本オーディオ協会の公式 YouTube チャンネルで視聴ができるようにしております。皆さまに是非お聞きいただきたいと思います。

<https://www.youtube.com/watch?v=IGSUnxKxYaI&t=8s>

(3) 「音の日のつどい」パーティー

すべてのイベント終了後、日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、日本レコード協会、演奏家権利処理合同機構 MPN および日本オーディオ協会の共催で、「音の日のつどい」パーティーを会員および関係者など総勢 100 名あまりの方に出席いただき、盛大に執り行われました。冒頭、小川会長の挨拶の後、学生の制作する音楽録音作品コンテスト受賞者の方、また、同時開催の第 26 回日本プロ音楽録音賞の受賞者の方の紹介の後、日本レコード協会の畑理事の発声により乾杯を行い、皆さんご歓談されていました。若い方の参加も多く、世代を超えて交流されるなど、「音の日」にふさわしいパーティーでした。

(4) おわりに

令和を迎え新たな会場、新たな内容で変化を加えた「音の日」の記念行事を無事終えることができ、大変安堵しております。不慣れな点がございました事、この場を借りてお詫びいたします。「音の匠」顕彰および「日本オーディオ協会功労賞」の授賞式は今年の OTOTEN での実施へ向けて選定委員の方を選出し、審査を進めて参ります。また今年の「音の日」の記念行事へ向けて、皆様方のご意見・ご要望をいただきながら、また新たな気持ちで取り組んで参りたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

■執筆者プロフィール

林 和喜 (はやし かずよし)

1962 年、東京生まれ。

